

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----------|
| I. 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|-------|------------------------------|
| 事業所番号 | 鹿児島県指定 第4670104498号 |
| 法人名 | 株式会社 メディコープ |
| 事業所名 | グループホーム おあしす |
| 訪問調査日 | 平成 22 年 3 月 31 日 |
| 評価確定日 | 平成 22 年 5 月 27 日 |
| 評価機関名 | NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構 |



○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月10日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|---|-------|------------|
| 事業所番号 | 鹿児島県指定 第4670104498号 | | |
| 法人名 | 株式会社 メディコープ | | |
| 事業所名 | グループホーム おあしす | | |
| 所在地 | 鹿児島県鹿児島市谷山中央六丁目27番5号 (電話) 099-263-1771 | | |
| 評価機関名 | NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年3月31日 | 評価確定日 | 平成22年5月27日 |

【情報提供票より】 (22年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|--------------|-------------|-----------|
| 開設年月日 | 平成 17年 8月 3日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 18 人 | 常勤13人 非常勤5人 | 常勤換算15.3人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|-----------------|--|--|
| 建物構造 | 鉄骨 造り | | |
| | 3階建ての 1階 ~ 3階部分 | | |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|------------------|----------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 30,000 円 | その他の経費(月額) | 400 円 |
| 敷金 | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | — |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり 1,000 円 | | |

(4) 利用者の概要 (3月 1日現在)

| | | | | | |
|-------|----------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 17名 | 男性 | 4名 | 女性 | 13名 |
| 要介護1 | 3名 | 要介護2 | 5名 | | |
| 要介護3 | 3名 | 要介護4 | 4名 | | |
| 要介護5 | 1名 | 要支援2 | 1名 | | |
| 年齢 | 平均 84.2歳 | 最低 | 68歳 | 最高 | 98歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-------------------------------|
| 協力医療機関名 | 総合病院鹿児島生協病院 谷山生協クリニック (医科・歯科) |
|---------|-------------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、鹿児島市の副都心部を形成する谷山地域にある。近くには、春の桜、秋の紅葉など季節感豊かな慈眼寺公園などや、人のふれあいのあるスーパーマーケットなど、恵まれた環境の中にある。関連医療機関等と緊密な連携のもと、運営体制、利用者の健康管理ともに充実しており、家族等に安心感が得られている。基本理念の他にユニット短期目標を設定し、理念をケアの軸にしている。記録による職員間の情報共有を徹底し、ケアの統一を図っている。職員は研鑽意欲を高く持ち、利用者に対してもそれぞれのニーズを細かに把握し、ケアプランに反映し、利用者本位の支援をしている。

【重点項目への取組状況】

| | | |
|------|---|--|
| 重点項目 | ① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議を活かした取り組みについて、地域包括支援センター職員も参加し、充実した会議の運営がなされている。職員を育てる取り組みについて、年間研修計画を立て段階に応じた研修に参加し職員育成に努めている。災害対策について、全職員参加の災害訓練を行っており、すべてに改善している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は、自己評価を、ケアを見直す機会ととらえ、全員で自己評価に取り組んだ。年間計画を立て、利用者と一緒に取り組んでいく課題を設けるなど、サービスの質向上に活かしている。</p> |
| | ② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>行政や多くの参加者を得て、充実した会議を定期的で開催している。町内会の餅つき大会への誘いや避難誘導協力・ボランティア訪問の申し出などがあり、充実した意見をサービスの質向上に活かしている。</p> |
| 重点項目 | ③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>来訪時や年4回の家族会等の行事参加時に意見や要望を出しやすい雰囲気づくり心がけている。職員異動の際に紹介方法などの要望を受け、分かりやすく玄関に掲示するなど、意見を反映している。</p> |
| 重点項目 | ④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、回覧板を届けたり、地域のふるさと祭り・通り会開催のイベント行事・清掃活動等に参加している。また、中学生の職場体験を受けたり、地域住民と交流を積極的に行っている。</p> |

2. 評価結果（詳細）

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期 待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|----------|---|---|--------------------------|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 地域密着型サービスの意義と、慣れ親しんだ地域で家族や地域の人達との絆を重視したその人らしく暮らせる支援を、職員全員で確認し、理念を作っている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念は、玄関やホール・職員のネームプレートに掲示している。申し送り時やミーティング時に唱和し共有に努めている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 町内会に加入し回覧板を届けたり、地域のふるさと祭り・通り会開催のイベント行事・清掃活動等に参加している。また中学生の職場体験を受けたり、地域住民と交流を積極的に行っている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 職員は、自己評価を、ケアを見直す機会ととらえ、全員で自己評価に取り組んだ。年間計画を立て、利用者と一緒に取り組んでいく課題を設けるなど、サービスの質向上に活かしている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 行政や多くの参加者を得て充実した会議を定期的開催している。町内会の餅つき大会への誘いや避難誘導協力・ボランティア訪問の申し出などがあり、充実した意見をサービスの質向上に活かしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|--|----------------------|-----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市担当者へ、介護相談員の受け入れや利用者の暮らしぶりやホームの取り組み状況を相談する等して、連携を深めている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 毎月発行の「おあしす便り」で、家族へ担当職員の報告を添えて送付している。また、来訪時に心身の状況や暮らしぶりを報告している。金銭管理は出納帳で管理し、家族等に確認してもらいサインをもらっている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 来訪時や家族会等の行事参加時に意見や要望を出しやすい雰囲気作りに心がけている。職員異動の際に紹介方法などの要望を受け、分かりやすく玄関に掲示するなど、意見を反映している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員と入居者や家族等、馴染みの関係を重要視したケアを心がけて、異動や離職を行わない努力をしている。やむを得ない異動の場合には、後継者を育成し、引き継ぎ期間に余裕を持たせてダメージ予防に努めている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 年間研修計画を作成し、段階に応じた外部研修会に参加し、研修報告を行い、職員は共有している。定期的にホーム内勉強会も実施している。資格取得希望者には勤務の配慮を行い職員の意識向上に努めている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡協議会に加入しており、研修会・交流会に積極的に参加している。地区のグループホーム間の定期的な勉強会に参加したり、入居者と一緒に相互訪問する準備もされている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居希望時には、自宅や病院に行き本人と面談したり、家族・主治医・担当ケアマネージャーから意見を聞いている。また、ホーム見学や話し合いの時間を設け、信頼関係を築き不安なく入居できるように取り組んでいる。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は利用者と一緒に調理の下ごしらえや園芸など日常作業をしながら、昔の風習やしきたりなど、教わりながら傾聴に心がけ、日々を共に過ごしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 個々の生活リズムを理解し、会話や言動・表情などから把握するようにしている。また、些細な発見なども記録し、申し送り時に伝達し共有している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人の生活歴や思い・身体状況等を、本人に関わる関係者の意見や要望をもとに、カンファレンスを行い、本人本位の介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 定期的に半年毎の見直しと、毎月モニタリングを行っている。入居者の状態変化時等には、その都度見直しをしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 医療連携体制をとっており、健康管理に安心感がある。病院受診や墓参り・実家訪問・特別な外出支援等、本人や家族の要望に応じて必要な支援を行っている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族等が希望しているかかりつけ医の受診を支援している。また、往診が継続できるように連携を取り支援している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 医療連携体制をもとに、ホームで支援する方針を明確にしている。また、看取りの事例もあり、本人や家族に納得ある支援を職員で共有している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 職員の意識向上を図るため、尊厳に対する関わり方について勉強会を行い、ケース毎に確認し合っている。入居者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の日課の中で、その人の生活リズムと身体状況を大切にし、本人の希望や要望に応じ、工夫しながら支援している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立に希望を取り入れ、職員と一緒に下ごしらえや盛り付け・配膳・下膳などを行い、大きなテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴日は決めているが、一人ひとりの体調や希望に合わせて入浴支援をしている。また、入浴を拒む人には職員を交代したり声かけに工夫し、楽しく入浴できるように支援している。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 菜園作業やぬり絵・ボール遊び・歌・調理の手伝い等、本人の趣味や特技が発揮できるように支援している。また大型スーパーでの買い物や理美容院・足湯へのドライブなど、希望を聴きながら気晴らしの支援もしている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 散歩や買い物・公園に出かけている。弁当持参で、ピクニックやドライブ等、車椅子利用者も努めて出かけるよう機会作りを工夫し、閉じこもらない支援に努めている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 職員は細心の注意を払い連携を取り合い、見守りを徹底し、一人ひとりの行動を把握して、鍵をかけずに自由な暮らしができるようにしている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防署の指導のもと、年2回、昼夜間想定した避難訓練を実施している。緊急時の連絡網や煙探知機・スプリンクラーが完備されている。災害時の備蓄もしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分量や食事量を記録して、一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保ができるように取り組んでいる。身体状況に合わせて食事形態を変えている。栄養バランスは栄養士のアドバイスももらっている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 明るく広いホールの中に、畳スペースや調理の手伝いができる場所・食事する場所が設けられている。音や光・温度・換気に配慮が行き届き、慣れ親しんだ季節行事の装飾や家具類に囲まれて入居者はゆったりと過ごしている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | カセット・ソファ・棚・家族写真・ぬいぐるみ・タンス・時計・衣装ケース・作品など、使い慣れた物品が持ち込まれている。和室と洋室があり、希望する居室を選びその人らしく生活ができるように居心地の良い居室作りになっている。 | | |

※ は、重点項目。